

実践研究の効果・検証（作業部会より）

【成果】

- 生徒のニーズ
 - 生徒・保護者の満足度が高く、課題はあるものの、生徒の活動はこれまでと同等、又はそれ以上の活動が保障されている。
- 顧問の負担軽減について
 - どちらの実践研究においても、それぞれの方法で業務削減が図られており、顧問の負担軽減につながる、大変効果のある事業であるということがいえる。
- 関係機関との連携について
 - 行政の協力体制があると、学校とクラブを繋ぐ役割であったり、施設やバスの利用などの経済的な支援等があり、円滑に活動が進められている。
 - 保護者への説明、会場の申し込み、指導者の確保等、クラブから一手に引き受けていただいているため、円滑に活動が実施できている。連携の在り方について、参考となるものである。
 - 合同部活動における外部指導者については、天童市野球連盟と連携していることから、専門的な指導者を常に複数派遣することができ、生徒の充実した活動につながっている。

【課題】

- 関係機関・保護者等への周知について
 - 生徒、保護者、教員は、事業についてよく理解してないところがあり、保護者や地域等への周知方法については、機会ある毎に何らかの形で周知していく必要がある。
 - 部活動改革の周知については、周知する対象者によって、伝える情報が若干違うため、それぞれに向けた情報提供であるとよい。
- 指導者の確保について
 - 実践研究後も、継続して指導者謝金等の支払いを維持していくためには、地域スポーツ活動は受益者負担という認識が浸透していかなければ維持は難しいことを、保護者に理解してもらう必要がある。
- 大会引率について
 - 中体連・高体連主催以外の大会であっても、大会要項には教員の引率が参加条件として記載されているものがある。大会数や大会引率を含めた大会の在り方について、今後、関係団体と協力して検討を進めていく必要がある。
- 実践研究を通して見えた新たな課題について
 - これまでにはなかった報告や新たな手続きが、クラブとしても負担があるようだ。今後、他の学校とクラブが連携して進めていくとなった場合には、専属の事務局、クラブマネージャーがいたとしても、やや業務の増加が予想されるため、行政側からの協力もあれば円滑に進められると思われる。
 - 大規模校では、施設の確保が大きな課題としてあげられる。学校の施設だけでは、現在、部活動の調整だけで大変な状況があり、クラブと学校を繋ぐ調整役を担ってくれる機関や人材の必要性がある。
 - 「部活動」という枠にとらわれず、中学生・高校生のスポーツ環境を整備するという視点で考えていく必要がある。 → 教員・学校の意識改革

【次年度の取組みについて】

《休日の部活動の段階的な地域移行》

〔次年度の研究の柱〕

- ☆地域移行に向けた説明会の実施（部活動改革についての周知）
- ☆クラブの体制整備
- ☆市町村関係機関との連携

〔実践を通して見えてきた課題に対する具体的取組み〕

課題	課題解決に向けた取組
・指導者の確保	・各競技団体との連携（県教委調整） ・リーダーバンクやまがたの充実
・施設利用について	・学校やクラブが市町村教委等関係機関と、協力体制を依頼・調整・検討
・生徒・保護者・学校・地域等への周知	・県教委・市町村教委・クラブが連携し、生徒・保護者・学校・地域等へ説明会の実施 ・部活動と地域スポーツ活動の役割を明確化
・教員の兼職兼業について	
・顧問とクラブとの連絡調整について	
・大会の参加及び引率について	・学校が大会参加、引率についてすみ分けを図る
・クラブ側の事務作業量の増加	・会費の検討 クラブ・村教委・学校・保護者等で協議を進め、持続可能なクラブ運営の在り方を検討 ・学校とクラブを繋ぐコーディネーターの配置
・総合型クラブの体制整備	

《合同部活動の推進》

〔次年度の研究の柱〕

- ☆合同部活動（スポーツ環境の構築・働き方改革）についての説明会の実施
- ☆合同部活動からクラブ化していくための体制整備
- ☆市町村関係機関との連携（部活動の再編、方向性について）

〔実践を通して見えてきた課題に対する具体的取組み〕

課題	課題解決に向けた取組
・生徒・保護者・教職員の理解	・県教委・市教委・学校・野球連盟が連携し、生徒・保護者・地域等へ説明会の実施 ・部活動に対する意識改革につなげる
・業務分担の整理	
・活動場所への移動手段	・活動場所の確保、移動に対する支援の在り方を、関係機関と検討